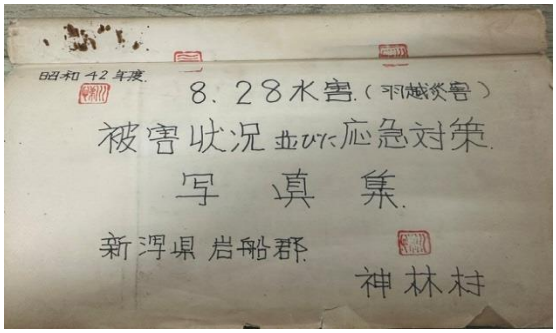
# すなやま支援員だより

VOL.98

令和　8年6月　発行
発行者：砂山地域集落支援員　阿部久美子
拠点施設：めでたや
住所：村上市塩谷1325-48(中央公民館内)
電話：　62-7222
防災タブレット：62-7222

近年は全国各地で、これまでに経験したことのないような集中豪雨や山火事、地震などの災害が頻発しています。本格的な梅雨の時期の前に、私たちの地域でも「他人事」とは思わず、事前に準備できることから防災を始めてみましょう。地域の方に頂いた様々な貴重な資料の中から、昭和42年度にあった8.28 水害(羽越水害)の写真を掲載したいと思います。




旧神林村の概要　面積82.25㎢　人口13,423人
　　世帯数　2497世帯　農地2,516ヘクタール
災害の概要　昭和42年　8　月28日4時から29日7時までの間に357.5m/m(以後、雨量計水没)時間最大 43m/m(28日24時から29日1時)
災害発生状況　28日18時頃より小河川の増水、並びに山崩れ発生。28日22時荒川防波堤並びに山津波により村内平垣地は荒川の濁流により水没。土砂流入山間部は土石流入のため、被災者10,223人1,897世帯となり大部分の集落は30日朝まで孤立状態となる。激甚災害となった。

| | |
|---|---|
| 被害総額 | 55億8485万1000円 |
| 損害総額 | 56億8255万2000円 |
| 応急対応並びに救助活動費 | 97万7000円 |














過去の教訓を未来につなげ、日頃からの備えを大切にしていきたいですね。『まさか』を『もしも』に変え、日頃から家族で防災について話し合ってみてください。災害はいつ起こるかわかりません。日頃の備えを見直すきっかけになれば幸いです。




皆さんのご家庭で準備してある『非常持ち出し袋』の中には何が入っているでしょうか？買ったまま一度も中身を見ていない、賞味期限切れの乾パンや水がそのまま入っている場合も考えられます。非常時には、行政の支援も滞り、すぐに支援物資が届かないことも考えられます。

ご家庭では家族の人数×3日分の食料や水、緊急簡易携帯トイレや薄いアルミでできた簡易ブランケットなどをあらかじめ準備しておくと安心です。非常袋は、避難所へ逃げて最初の 1 日をしのぐためのものです。欲張りすぎず、背負って走れる重さ（男性15キロ、女性10キロ、高齢者はそれ以下が目安）にまとめるのがポイントです。

## ①命を守る・非難するための基本の道具

・懐中電灯、ヘッドライト、携帯ラジオ、笛
軍手、厚手の靴など

## ②生き延びるための水と食料

・飲料水500mlを2～3本
・非常食（調理不要のもの）
ゼリー飲料、チョコレート、ようかん

## ③体調とプライバシーを守る『衛生・防寒・暑さ対策用品』

・緊急簡易トイレ、ウエットティッシュ、マスク
防寒アルミシート、携帯扇風機、冷えピタなど

## ④個人の事情に合わせた『マイ防災グッズ』

・お薬手帳、持病の薬
・予備の眼鏡、補聴器の電池
・携帯の充電器、バッテリー他
・現金（小銭多め）公衆電話、自動販売機用
・サランラップ、新聞紙、アイラップなど

・一人に一つが鉄則；家族で共有せず、各自が自分のリュックを持ちます。（高齢者、子供用、大人用など）
・置き場所は玄関か枕元；いざというときすぐ持って飛び出せる場所に置きましょう。
・いらないものに注意；お湯の必要なカップ麺や、重い毛布は非常袋の容量を圧迫するため、自宅待機用の備蓄（2 次備蓄）に回します。

すなやま支援員だよりについてご意見、ご要望がございましたら、
お気軽にお問合せください。E メールアドレス；sunayama.shien@gmail.com